



市民病院だより 夏号

けんこう湘南21 第24号
2006年6月1日発行

平塚市民病院
〒254-0065
平塚市南原1-19-1
TEL 0463-32-0015

子宮筋腫の話

はじめに

平塚市民病院産婦人科には、毎日多くの子宮筋腫(以下筋腫と略す)の患者さんが来院されます。一説によりますと30歳以上の成人女性の実に2割以上の方、すなわち4人から5人に1人の方が筋腫をお持ちだそうです。大変な数です。しかしながら、多くのケースでは自覚症状がなく、たまたま検診などの際に指摘されて、はじめて気がついたと

いう場合が多いようです。実は、一生気づかれないままに放置されておられる方も多いと思われます。ただし、閉経された後は、子宮自体が小さくなるように筋腫も小さくなるので心配ありません。今回は、この女性にはありふれた病気である筋腫についてお話したいと思います。

ハイライト

子宮筋腫の話

子宮筋腫とは
症状について
診断法について
治療法について
日常生氣をつけること

がんについて

シリーズ正しいがんの知識
②がんの早期発見

ホームページもご覧ください
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/hospital/>

市民病院の理念「安全と信頼」

患者の視点に立ち、安全で、信頼される、地域に根ざした医療を提供するとともに、健全な病院運営に努めます

基本方針

—病院の理念のもと、基本方針を次のように掲げます—



1 患者の視点に立った医療を提供します

患者への十分な説明と同意のもとに、医療を提供します
患者への診療情報の提供を、積極的に行います
患者の権利を尊重し、患者中心の全人的医療を展開します

2 安全で信頼される医療を提供します

安心して医療が受けられるよう、院内環境の整備に努めます
高度で良質な医療水準を確保し、地域住民に提供します
医療者の教育・研修に努め、確実な診断、治療を提供します

3 地域に根ざした医療を展開します

地域の中核病院として、高度医療・救急医療の充実に努めます
地域の医療機関との連携を推進し、地域医療に貢献します

4 病院経営の健全性の向上を図ります

公共の利益を確保するとともに、効率的な病院運営に努め、健全化を図ります

筋腫とは

筋腫は、子宮の筋肉にできる良性の腫瘍、いわゆる“こぶ”です。原因は諸説ありますが、胎児期に目に見えないくらいの大きさの芽ができ、やがて初潮後に女性ホルモンの影響も受けて何年もかけて徐々に大きくなっていくと考えられています。ですから未成年の方にはまず見つかりません。筋腫の大きさは様々で、小さいものはそれこそ肉眼で見えないものから、大きいものでは子どもの頭ぐ

らいまでになる場合もあります。筋腫は1つだけ出来る場合もありますが、通常は複数個出来ており、そのため子宮が“八つ頭”状になることも珍しくありません。

症状

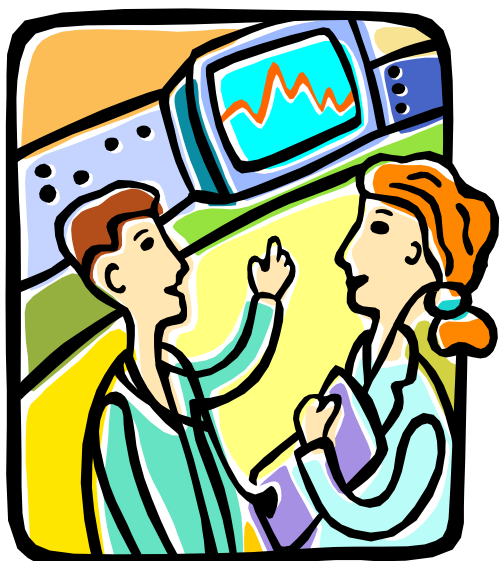
無症状のこともありますが、主な症状としては、月経時の出血量が増えます(月経過多)。このために月経痛がひどくなったり、慢性の貧血を引き起こしたりすることもあります。内科の検診で貧血といわれ、その原因を調べてみたら筋腫だったという話はよく聞きます。筋腫の場合、症状と大きさとは必ずしも一致しません。大きさよりも筋腫のできる場所の方が重要のようです。筋腫は、その発育する方向によって、①子宮の筋肉の内に発育する“筋層内筋腫”、②子宮の外側に発育する“漿膜下筋腫”、数は少ないですが③内側に発育する“粘膜下筋腫”に分類されます。特に粘膜下筋腫がある場合は月経過多になること

が多いようですが、筋層内筋腫でも子宮全体を引き延ばすように発育するタイプは月経過多になります。このほかの症状としては、月経とは関係ない時に出血する不正出血、不妊、あるいは月経とは関係のない時の下腹部痛や腰痛などがあげられます。これらの症状も粘膜下筋腫がある場合には多いようですが、その他のタイプでも起こります。また後側にある直腸を圧迫し、便の通過を妨げて便秘を起こすこともあります。逆に子宮の前にある膀胱を圧迫して、頻尿や排尿困難を起こすこともあります。ごくまれには、尿の通り道を完全にふさいで尿が全く出なくなる

診断法

筋腫の診断のためにはまず内診を行います。人によっては、大きくなった子宮を自分でお腹の上から触れられる場合もあります。症状や内診から疑われるときは、確定診断のため画像診断を行います。中でも超音波

検査は、簡単で痛みを伴わないのでよく用いられます。膣から行う経膣超音波検査は、子宮に近い位置から行えるので1cm程度の小さな筋腫でも診断することが出来ます。さらに詳しい診断が必要な場合には、CTやMRI検査を行うときもあります。



治療法

筋腫の治療は、主に手術が行われます。子宮全体で成人男性の握りこぶしよりも大きい場合が一つの目安になりますが、特に決まりはありません。これより小さくとも、貧血や不妊などの症状が出る場合には手術の対象になります。手術の種類には、子宮全体を摘出してしまう子宮全摘術と、筋腫のこぶだけを摘出する筋腫核出術とがあります。両方とも原則的にはお腹を切る開腹手術をしますが、最近では腹腔鏡手術という小さな傷で済む方法もあります。入院は、開腹手術で約12日、腹腔鏡手術で約6日かかります。子宮全摘術と筋腫核出術はそれぞれ一長一短がありますが、一般的には将来妊娠を希望する方の場合は筋腫核出術を行い、そうでない方の場合は子宮全摘術を行います。

日常気をつけること

病院で筋腫と診断された場合に、日常生活で気をつけることは特にありません。運動や食事でも筋腫を小さくする方法は、残念ながらありません。ただし貧血がある場合には、鉄分の多い食事(たとえばレバーやほうれん草、海草など)を取るよう心がけて下さい。また、子宮に出来るがんの一種に子宮肉腫という病気がありますが、肉眼的にもその他の検査上も筋腫に

おわりに

子宮筋腫はごくありふれた病気ですが、意外とご自分が罹患されておられる方も余りよくご存じない方が多

最近では、子宮動脈塞栓術や集束超音波法といった手術をしないで筋腫を治す方法も開発されてきていますが、まだまだ一般的ではありません。

閉経後には筋腫は小さくなってきますが、この性質を利用して筋腫を小さくする治療法もあります。ホルモン剤の注射もしくは点鼻薬を用いて体を一時的に閉経状態にするもので、薬を使い始めてから1～2カ月すると筋腫が小さくなってきます。ただし、薬を使い終わって月経が再開するとまたすぐに元の大きさに戻ってしまいます。副作用から6ヶ月以上治療できませんので、一時的に筋腫を小さくしたい場合しか使いません。



そっくりで、摘出後の病理検査以外はほとんど区別が付きません。ただ、筋腫よりも大きくなり方が激しいので、数カ月間の変化がこの病気の診断の一助になることがあります。しかし、子宮肉腫に関しては余りに病む必要はありません。なぜなら、幸いなことに子宮がんの中でも稀ながんで、筋腫に比べるとほとんどない病気だからです。

いようです。少しでもみなさまのご理解の助けになればと希望しております。



『がんについて』

シリーズ 正しいがんの知識

②がんの早期発見

がん性疼痛看護認定看護師 浅沼絵美

最近、テレビや新聞で「がんについて」多くの事が語られており、国民のがんに対する関心の強さを感じます。その情報の内容は参考になるものがほとんどですが、中にはまれなケースを大袈裟に表現して、「こうすれば末期がんも治る」などの治療に対する過剰な期待をかきたてるものや、反対に「この症状は生命を左右する」など予後に対する不安をいたずらに誘うものもあります。このような情報に振り回されないためにも、そして何より自分自身の健康を守るためにも、私達は正しい知識を持つことが必要です。

シリーズ2回目は「がんの早期発見」についてお話しします。

ここに4人の患者さんを紹介します。

Aさんは70歳の男性で酒屋を営んでいます。

「バブルがはじけてから店を守る事に懸命で、熱が出てもお腹が痛くても気合で治していました。先月、組合の友達に誘われて初めて人間ドックに行ったら、そこで前立腺の腫瘍マーカーが高く、前立腺がんが見つかりました。最近、トイレの回数が増えておしっこもすっきり出ないのは歳のせいとばかり思っていたよ。まさかがんだとはね。人間ドックに誘ってくれた友達に感謝していますよ。」

Bさんは44歳の女性で主婦です。

「1年くらい前に、左の乳房にしこりがあるのに気がつきました。これは乳がん？と思ったけど病院に行くのが怖くて・・・子供の受験や夫の出張を言い訳に受診を先延ばしにして、ようやく病院に行ったら思っていた通り乳がんと言われて手術を受けました。今は左の乳房がないのですよ。しこりに気がついた時すぐに病院に行っていれば乳房を全部取らずにすんだのかな？と今は受診を先延ばしにした事を少し後悔しています。」

Cさんは58歳の男性で会社員です。

「毎年受ける職場の定期健診の結果、便潜血陽性だということで精査を勧められました。ビックリしてすぐに病院に行ったら直腸がんと言われたのですが、幸い初期だということでお腹を切らずに内視鏡で悪いところを取りました。病気の初期って何の症状もないことがあるのですね。」

Dさんは51歳の男性で会社員です。

「若い頃から肥満傾向でこれまでにいろんなダイエットに挑戦してきましたが、上手くいきませんでした。でも病院には全く縁がなく、体力と健康には自信がありました。それが食事はいつも通り、特別な運動もしないのに痩せてきたのです。周りの人から『最近スリムになったね』と言われて始めは喜んでいたのですが、何もしてないのにどんどん痩せて

いくのが心配になって病院に行ったら胃がんでした。健康だけが取得でしたから、自分がかんになるなんて思ってもいませんでした。」

4人の方の話を聞いて皆さんはどのように感じましたか？

Aさんは、尿の回数が増えてすっきり出ないという身体からのメッセージ(症状)を老化と受け取っていましたが、たまたま受けた人間ドックでがんを見つけることができました。

Bさんは、乳房のしこりという身体からのメッセージを受け取っていたのですが、がんとはっきり診断される恐怖心から受診が遅れて早期治療にはいたりませんでした。

Cさんは、身体からのメッセージは何も無かったのですが、定期健診を受けたことから、がんの早期発見・早期治療を受けることができました。

Dさんは、健康に対する過剰な自信から、やせたという身体からのメッセージを正しく受け取ることに時間を要しました。

がんの早期発見・早期治療には定期的な健康診断を受けることに加えて、身体から発信されるメッセージ(症状)を感じ取る事。そしてメッセージを感じたら正しく解釈して早めに受診する事が大切です。皆さんは身体からのメッセージを感じられますか？

早期発見、早期治療に結びつくためにも、定期的な健康チェックが必要です。職場の健康診断をはじめ、市の基本健康診査とがん検診や人間ドックなどをうまく利用されるといいでしょう。平塚市民病院では、日帰りの人間ドックを、男性は月・火・金、女性は水・木に実施しています。あらかじめ予約が必要で、検査項目はコースによって異なります。料金や内容についての詳細は、平塚市民病院医事課にお尋ねください。

